



夏のオススメ本紹介

YA担当より

暑い夏。楽しいイベントがいっぱいでわくわくしている人も多いのでは？
 体調管理に気を付けて、楽しい夏を過ごしましょう！
 暑さにつかれた時には…涼しい場所で読書なんていかがですか？
 ぜひヤングコーナーに足を運んで、お気に入りの一冊を見つけてみてください。

①

「声の出ないぼくと
 マリさんの一週間」
 松本 聡美／作
 渡邊 智子／絵
 汐文社
 YA書架 913 マ



声が出ない少年「ぼく」が、ママの出張中に、ママの幼馴染のマリさんと過ごす不思議な一週間。
 声が出せなくなった「ぼく」は、いやなことがあっても、まっすぐに生きている人と出会い、過ごしていくうちに、前向きに生きようとしていく…。
 色々なことを悪い方向に考えてしまう人にぜひ読んでもらいたい一冊です。

②

「ジャック・テロシュの日記
 隠されたホロコースト」
 ジャン・モラ／作
 横川 晶子／訳
 岩崎書店
 YA書架 953 モ



拒食症の少女エマが、ある日祖母の家で見つけた1冊のノート。それは第二次世界大戦中に収容所にいた軍人、ジャック・テロシュの日記でした。そこに書かれていたのは、一人の女性を愛しながらも、自分の正義を信じ、ユダヤ人虐殺に手を染めていく男の姿。その恐ろしい所業を知ったエマは…。
 ジャックの存在が現在につながった時、衝撃の結末が明かされます。戦争の記憶と、エマの心情に心を揺さぶられる一冊。

③

「戦争で死んだ
 兵士のこと」
 小泉 吉宏／作
 メディアファクトリー
 YA書架 726.5 コ



「今はのどかな森の中の湖のほとり、ひとりの兵士が死んでいる。」
 この本では、戦争で死んだ一人の兵士を、その1時間前、2時間前、4時間前、…と生まれる前まで遡って描いています。約30ページのとても短く簡潔な内容ですが、だからこそ、当たり前のように過ごしていた中で、あまりにもあっけなく亡くなってしまった命について、より考えさせられるお話です。

④

「センス・オブ・ワンダー」
 レイチェル・カーソン／著
 上遠 恵子／訳
 新潮社
 YA書架 404カ



子どもの頃は誰も色々な物に「どうして」「何」といった興味を示します。しかし大人になるにつれ、そういったものを忘れていくように思います。本書は、「沈黙の春」で地球環境に警鐘を鳴らした著者が、甥のロジャーや全ての子どもたちに向けたメッセージでもあります。日々の中で自然の脅威を感じることに、私たちは地球の生命の一員でしかないこと、人類が愚かな選択をしないことなど、著者の思いを受け止めてみませんか。



YAとは…ヤングアダルトの略で、「子どもでも大人でもない世代」のこと。13歳から19歳くらいが主な対象です。